

報 告

バリアフリー 2012

川村義肢株式会社 左部 めぐみ

1. はじめに

去る4月19日(木)～21日(土)にインテックス大阪で第18回高齢者・障がい者の快適な生活を提案する総合福祉展バリアフリー2012¹⁾(以下、バリアフリー展)が開催されました。様々な福祉機器の展示・講演・セミナー・ワークショップが開講される西日本最大の福祉機器展です。

私は、最終日の4月21日(土)に見学しました。

2. 関東と関西の展示会の考え方

生まれも育ちも東京である私は、昨年、東京ビックサイトで開催された第38回国際福祉機器展H.C.R.²⁾(以下、H.C.R.)も見学しました。同じ福祉機器の展示会ですが、関西と関東とを見学してみて2つの考え方の違いについて感じたことを述べてみようと思います。

全体の出展企業数や来場者数はH.C.R.の方が多く、中小企業は開催地域周辺の企業が多かった感じがしました。広いブースを使用する大企業は関東関西関係なく出展しているので、どちらかが何かに特出している感じもなく、展示内容も同様に偏り無くカテゴリーごとにバランスよく配置されていたと思います。

その中で、私が注目したのが開催日程の違いです。H.C.R.は水・木・金の全日平日開催ですが、バリアフリー展は木・金・土と1日だけ休日が入っており、その休日を利用して家族で参加した一般ユーザーが多かったということです。昨年の各展示会の集計データ(2011年来場者データ参照)を見比べても、一般参加者の比率はH.C.R.が30%なのに対してバリアフ

リー展は39%と1割ほど高く世間一般に認知されているのだと思いました。

また、バリアフリー展では多くの車椅子ユーザーや高齢のユーザーの方が積極的に最新の車椅子や介護ベッドや階段昇降機等の福祉機器を使用しているのが目に留まりました。様々な機器を試してみ、気になる場所があればメーカーの人に質問をして、より自分のニーズに合う機器をさがしてみよう。関西のユーザーは自分らしい快適な暮らしがしたいという気持ちを外に表現するのが上手だと思いました。

バリアフリー展はユーザーの視点を大事にする展示会なのだと思います、主催者側の考え方に共感しました。

3. 箱根式車椅子から考える

今回、バリアフリー展の日本リハビリテーション工学協会のブースで箱根式車椅子³⁾(図1)が展示されるという情報をFacebookで知り、個人的に楽しみにしていました。箱根式車椅子と言えば、知る人ぞ知る現存する最古の国産車椅子といわれています。



図1 箱根式車椅子

川村義肢株式会社

〒574-0064 大阪府大東市御領 1-12-1

以前、趣味の一環で東京九段下にあるしょうけい館⁴⁾に行った際に箱根式車椅子と偶然出会いました。その時は車椅子の知識はまったくといっていいほどありませんでしたが、初めて見る形状の車椅子にとっても興味が沸きあがったことを覚えています。しかし、展示室全体が少し暗めの照明だったことと、ガラス越しに展示されていたので、細部まで注視する事ができませんでした。そんな経緯があるため、明るい会場でまじまじと車椅子の細部を観察することができました。

さて、アメリカから輸入した車椅子を手本にして製造された箱根式車椅子は、現代の車椅子と比べると備わっているべき機能が欠けていて、どちらかといえば移動もできる椅子という印象が強いです。しかし、リクライニング機能とふかふかの座クッション、レッグサポートにもクッションが貼られていることから長時間その車椅子を使用して生活する人のための作りをしていると思いました。

実際にこの車椅子を使用していたのは過去の戦争で脊髄損傷を患った軍人さんです。この方たちが国立箱根療養所箱根病院（現：国立病院機構箱根病院⁵⁾）で家族と共に療養生活を送り、この病院の名前こそが箱根式の由来となっています。重くて扱いづらそうな箱根式車椅子を実際どのくらいの間使用していたのかは分かりません。脊髄損傷という大きなハンディキャップを負いながらもその当時療養生活を過ごされていたことから、車椅子だけではなく家族や沢山の人に支えられながら自分らしい人生を送れたのかもしれませんが。

ただ古いから興味があるのでは無く、その形が誕生した歴史的背景に魅せられたから箱根式車椅子に興味を沸いたのだと思います。とても貴重な経験ができて感謝しています。

4. 終わりに

私の出身校である啓成会高等職業技術専門校⁶⁾は沿革が特殊で、関東大震災罹災者に対して政府からの資金交付を受け、大正13年に洋裁の職業講習

と義肢の研究製作事業を開始したのが始まりです。近くに廃兵院があったことから恩賜の義肢を製作していたともいわれています。

今回のバリアフリー展を通してみて、今日の最新の車椅子や義肢装具や福祉機器について考察する上で、箱根式車椅子や恩賜の義肢の展示は誕生したその歴史的背景から様々なことを考えさせてくれる重要なものだと思います。

私が勤める会社にも義肢装具の歴史展示室があり、貴重な品々が展示されており一般の方も見学することができます。中にはユーザーの意向を無視し技術のみ先行して開発された負の歴史ともいえる物も戒めの意味を込めて展示されています。

日本のモノづくりは相手の立場に目を向け、使いやすさと利便性を兼ね備えた思いやりから生まれると思っています。

昨年、東日本大震災で親戚を津波で亡くし、自分ができることを模索して義肢装具の製作技術者として一歩を踏み出しました。技術的にも人間的にもまだまだ未熟ですが、ユーザーのニーズに最大限応えられる義肢装具を製造していくと同時に、相手の視点に立ち、気づいたことを他の福祉機器と複合的に提案できるような技術者になりたいと思っています。

【参考文献・参考 URL】

- 1) バリアフリー展 2012
<http://barrierfree.jp/>
- 2) 保健福祉広報協会：国際福祉機器展
<http://www.hcr.or.jp/exhibition/index.html>
- 3) 第31回日本リハビリテーション工学協会
車いす SIG 講習会テキスト
- 4) しょうけい館 戦傷病者史料館
<http://www.shokeikan.go.jp/>
- 5) 国立病院機構 箱根病院
<http://hakonehosp.com/>
- 6) 財団法人 啓成会高等職業技術専門校
<http://www.zai-keiseikai.org/>